

宇工高同窓会々報

会員の皆様へ

同窓会長

岡田 義治



同窓会々員の皆様には、健康やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

同窓会は現在、旧宇工高跡地の記念碑「発祥の地」建設に取り組んでいます。昨年の同窓会総会で頂いた、沢山のご意見から修正案を作成し、役員会（顧問、参与を含む）で検討を重ねて頂いております。平成27年度の総会に付議し、年度内の完成を目指します。

新しい記念碑の文字は、本校出身の栃木県知事・福田富一氏の揮毫によるもので、左

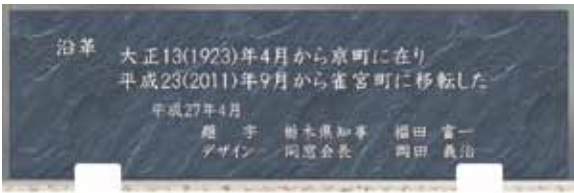


記念碑（正面左上）

側に石に刻んだ旧校歌を配し、右側にはかつてロータリーにあった荀子の言葉「道は近しと雖も行かざれば至らず・・・」を刻んだ石を配してあります。背景には旧ロータリーにあった岩状の石を使用しています。荀子の言葉は、当時（本校が昭和33年から43年まで）、校舎増改築落成記念に建立したもので、第40（43代目）の栃木県知事・横川信夫の揮毫によるものです。荀

発行所
宇都宮市雀宮町52番地
電話 (028)678-6500
宇都宮工業高校
同窓会事務局

子は、「礼」を重視し、「実力主義」に徹し、生涯学習の立場から「継続的な努力」を説いています。これらはいずれも旧京町の姿を彷彿させるもので、今後ともこれらの宇工の姿や形を繋いでいくことが望まれます。



記念碑（裏面文字）

また、同窓会のHPに、学校行事等の広報活動も掲載しておりますので、参考にして下さい。

宇工生活躍の一年

校長

池守 滋



本校同窓会の皆様には、日頃からあたたかいご支援をいただきまして、心から感謝申し上げます。

本校の生徒は、将来、職場のリーダーとなることが期待されております。リーダーとなるための基礎として、高校時代に様々なことにチャレンジし、全国的な活躍を願っております。

に4名が選抜されました。文化部においても、無線研究部が全国総合文化祭で入賞し、写真部では関東高校写真展に県代表として出展しました。また、本校の特色でもあるものづくりでも、生産システム研究部が今年も見事、日本代表としてWRO大会（ロシア・ソチ）に出場いたしました。関東高校生ものづくりコンテストに、旋盤作業・電気工事・木材加工部門に県代表として出場しました。

3年生の進路に関しまして、これまでの多くの先輩諸氏による実績をバックとして、就職希望者については、地元企業や県内の大企業を中心に10月末には大部分の生徒が内定をいただきました。さらに、公務員希望者も含め、今年も無事に就職内定率100%を達成いたしました。また、進学に関しましては、国公立大学14名、私立大学38名が合格し、専修学校等も東京や県内の各校から合格をいただきました。今後とも、生徒の進路希望が実現できるよう学校全体として取り組んでまいりますので、一層のご支援をお願いいたします。

高校生ものづくりコンテスト 関東大会に出場して

機械研究部

顧問 市 村 隆 幸

第14回高校生ものづくりコンテスト関東大会旋盤作業部門が、平成26年9月14日、東京都立田無工業高等学校において開催されました。

選手は関東各都県の大会を勝ち抜いた計10名で行われ、本県代表として機械科3年山崎慶太君が出場しました。

大会では、一部ローカルルールが適用されますが、ほぼ全国大会の課題、規則に準じた内容となつています。競技時間は2時間30分で競技終了となります。各選手はそれぞれのオリジナルのツールに合わせた工具整理台を設置し、それぞれの用途に合わせた加工用のバイトを20数本用意していました。

競技が始まり、ほとんどの選手が2時間内で作業を終了していききました。それぞれ加工工程などに工夫を凝らし、時間を短縮したり、多くの切削油を準備し仕上げ面がびびらないようにしている学校が多数あり参考になりました。また外部講師にも指導してもらい、多くの練習をこなし、この大会に臨んできていることがよく分かりました。本校の山崎慶太君も善戦しましたが関東のレベルは

高く、残念ながら入賞には至りませんでした。応援してくださいました、生徒・先生・保護者ならびに同窓会の皆様、ありがとうございました。



電気電子研究部

顧問 岡 本 幸 二

平成26年8月2日に行われた第14回栃木県ものづくりコンテスト電気工事部門で電気科3年の石川竜也君が優勝し、関東大会に出場しました。本年度は群馬県の前橋産業技術専門学校で開催され、各県から代表2名の計16名で競技が行われました。1820mm四方のベニヤ板に与えられた電気配線工事の課題を120分以内で正確に美しく仕上げ、減点を極力0に近づけるよう競います。石川君は日頃から熱心に、自ら意欲的に課題を見つけて練習を重ね、その真摯な取り組み姿勢は大変素晴らしいものであります。結果として安定した高い技術力

を身につけており、大会直前の練習では、減点0のレベルにまで仕上げ、優勝を狙えるところになっていました。結果は、優勝こそ逃しましたが3位と立派なものでした。後輩の指導にも熱心で、その取り組み姿勢を継承してもらいたいと思います。

建築研究部

顧問 黒 崎 利 之

今年度の関東大会は、平成26年9月6日(土)に山梨県甲府市の山梨県立青少年センター体育館で行われました。本県代表として、本校建築デザイン科2年佐藤大樹君が出場しました。彼は県大会において完成度の高い作品を仕上げ、優勝を勝ち取りました。今年度の課題は、桁から柱に架かる梁が傾斜し、さらに柱と梁の仕口は小根ほぞ組で、昨年度に比べて大変難しい課題となりました。練習では、仕口部分を何度も練習し、仕上げの正確さとスピードを高めました。その結果、大会では加工スピードが速くなり、順調に仕上がるように思えたが、最後の垂木の取り付け作業で、釘が大きな節に



あたつて取り付けが困難になってしまいました。最終審査においてこの部分で大きな減点になり、順位を大幅に下げた結果となつてしまいました。この結果に本人も悔しがっていたが、来年に向けて、上位入賞を目指して再起を図りたいと意気込んでいました。

WRO2014に参加して

生産システム研究部

保護者 小 倉 良 輔

11月21日から23日にかけて開催されたWRO世界大会に参加しました。宇工としては8年連続9回目の出場です。本大会は世界的な自律型ロボットの大会で、今年46の国と地域25000チームから選ばれた約400チームが参加しました。ロシア・ソチのアドレルアリーナを舞台に、正確さと速さを競うレギュラーカテゴリーと、テーマに沿って製作したロボットをもとにプレゼンテーションを行うオープンカテゴリーに分かれ競技



が繰り返されました。宇工からはオープンカテゴリーに1チーム出場し、英語によるプレゼンテーションという言葉の壁を乗り越え、6位入賞と審査員特別賞のダブル受賞という立派な成績を収めることができました。ひとえに努力した子供たち、ご指導くださった先生方、そして活動を支えてくれた保護者皆様の総力を結集させた成果だと感じております。高度な電子回路を自作し、激戦の日本大会を制した子供たちにはWRO大会を通じて、多くの経験が得られたことと思えます。一方で、国際舞台を経験したからこそみえた課題も多かったことでしょう。本大会へ参加したことが、課題を自ら考える良い機会になることを願っております。

全国・東日本・関東大会 に出場して

弓道部顧問 福 田 和 寛

今年度の弓道部は、県大会か



が繰り返されました。

ら東日本高校弓道大会や関東高校弓道大会、全国高校弓道選抜大会へと大きく活躍の場を広げた年になりました。

東日本大会は、秋田県で開催され、3人制団体競技で優勝し、神奈川県で開催された関東大会では、個人競技において、牧田君が優勝し本校弓道部初の関東チャンピオンになりました。



そして、本校弓道部初、団体競技で全国選抜大会に出場し、桜島の雄大な姿が見られる鹿児島県において競技に参加してきました。選手達は、全国各地の選手が集まる独特な雰囲気を感じ、初めての経験をしました。競技の結果は、予選敗退でしたが、この経験は、全国大会後に開催された、県高校新人大会で2年連続団体優勝という形で生かされたと思います。勝利には、負ける悔しさや1射の大切さを理解しました。

部員は弓道競技に関わりな

がら、日常生活に通じる事を、弓道を道具によく学び、良い経験をしてくれました。

働きながら学び、自ら考え、自ら行動できる視野の広い工業技術者の育成を目指して

定時制課程

教頭 伊 澤 雅 幸

1、定時制課程の概要

定時制に設置されている工業技術科は、各年2クラスの計8クラスで、1年次に工業に関する基礎的技術を総合的に学んだ後、2年次から電気コースと機械コースに分かれます。生徒数は、5月1日現在で164名（うち女子16名）となっており、その約1割に相当する16名の生徒が20歳以上です。

2、定時制課程生徒の変容

本校は、雀宮に移転して4年目になりますが、以前のように、全日制と定時制が共有した教室を使用するのではなく、定時制専用の教室が設置されたため、生徒の中には、始業時間の2時間以上前に学校に登校し、友人同士で会話を楽しんでいたり、読書をしていたり、中には勉強している者もあり、自分の居場所（ホームルーム）があることが、登校意欲や学習意欲にも良い影響が出ています。

また、定時制は、通常、在学期間は4年間ですが、3年間で卒業できる制度（三修制）

があり、特に、平成24年度入学生から、三修制で従来の第0限、第5限に加えて、第1限を導入したことにより、生徒は、以前より落ち着いて学校生活を送れるようになり、三修卒業生（H24・4名↓H25・15名）や三修制を希望する生徒の人数が増加しています。

さらに、部活動においても今年度、サッカーが県大会で7連覇し、陸上、バドミントンとともに全国大会出場となりました。軟式野球は県大会で10連覇し、北関東大会において群馬県の高校にも勝利（優勝）し、全国大会に出場となりました。関東大会ではサッカーが第3位、全国大会においては、サッカーが全国ベスト16、陸上が栃木県チームの一員として、1,600mリレーで7位に入賞するなど、定時制の生徒の活躍が目立っています。

3、おわりに

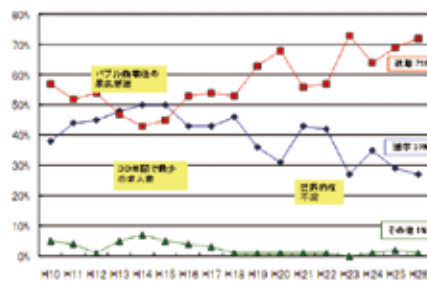
本校は科学技術高校として今年度（H26）で4年目、新校舎へ移転して昨年9月でちょうど3年が過ぎたところです。今後は、科学技術高校としての成果を検証しながら、個に応じた指導の更なる充実を図ることで、高校生としての学力とマナーをしっかりとし身に付けさせ、全日制を含めた全教職員協力の下、魅力と活力のある学校づくりを進めていきたいと考えています。

平成二十六年度の進路

進路指導部長 伊東 英彦

一 はじめに

科学技術高校第一期生となる今年の3年生は、それぞれの科・コースで専門的な知識・技術・技能を学んできました。景気回復等の影響もあり、求人数も大幅に増え就職者の割合が70%を超える学年となりました。



最近の進路状況の変化

二 就職

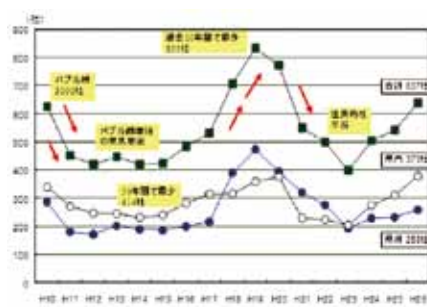
就職に関しては、民間企業221名（県内就職170名、県外就職51名）、公務員6名、自営等3名の合計230名が内定しています。科学技術高校の特色である「科・コース」で学んだ事を活かせる仕事を希望する生徒が昨年度同様多

くなりました。例えば、機械科・機械技術コースでは機械産業関連会社に7割が就職というところで、コースに特化した就職先になっています。

今年度の求人数数は、637社（県内379社、県外258社）でした。昨年よりも100社程度増加し、特に建設関連会社の求人が増えています。

三 進学

進学に関しては、国公立大学14名、私立大学40名、高専・大学校・専門学校等35名の合計89名の進学が決定しています。国公立大学では、宇都宮大学5名など、昨年度の12名に対して2名多く合格者を出すことができました。いずれの大学においても工業高校で学んだ工業の専門性を活かしての進学となっています。



求人数数の推移

